

あなたと市政をむすぶ



広島報  
No.171

# かんおんじ

2020 / 令和2年

1 January

## 特集 2020年、読書はじめ

### 目次

- ◎令和元年度上半期の財政事情……………6・7
  - ◎申告相談がはじまります……………10・11
  - ◎令和2年度就学援助……………22
- 【表紙】有明浜から望む伊吹島と燧灘



## 読書家だった 大平正芳元首相



写真：公益財団法人大平正芳記念財団

明治43年（1910年）に和田村（現在の豊浜町）に生まれた、第68・69代内閣総理大臣の大平正芳氏。読書家で文筆家としても知られ、「戦後政界屈指の知性派」と評されています。

私はどんなに忙しくても、毎週一度や二度は最寄りの本屋に立寄りにしている。そしてたいていの場合、二、三冊の新刊書を求めて帰りにしている。

（『私の履歴書』大平正芳著・日本経済新聞社刊）

いわゆる難しい本が好きであった。一生のうちに読む時間が限られているとすれば、さん然と光芒を放ち、心の深奥に響くような本を読みたいと願っていたようであった。「自分の残された人生のうちで、あと何冊読むことができるかな」というのが口癖であった。

（『最後の旅 遺された唯一の大平宰相日記』森田一著・行政問題研究所出版局刊）

歴史、社会、随筆などの分野の本を好み、読書の時間が十分にとれない時は、目次を読んで、興味を引く箇所から読む工夫をしていたといえます。大平元首相の蔵書をはじめ、著作や研究書など約8,500冊が「大平文庫」として県立図書館に開設されており、館内で閲覧することができます。

香川県立図書館（高松市林町2217-19）

開館時間 火～金曜日：午前9時～午後7時  
土・日曜日：午前9時～午後5時  
祝休日  
※年末年始は12/29～1/3まで休館

大平正芳記念館（世界のコイン館2階）

開館時間 月～日曜日：午前9時～午後5時  
※入館は午後4時30分まで  
※年末年始は12/29～1/1まで休館  
入館料 一般300円、小・中学生150円



観音寺市子ども読書の街づくり推進事業は11年目へ

## 読書は心と頭をほくほく、ほぐしてくれる

観音寺市子ども読書の街づくり事業推進委員会  
会長 中須 純子さん（柞田町）

読書が好きなお子さんを育てるために、観音寺市では「子ども読書の街づくり推進事業」という取り組みを進めており、ことしで11年目になります。教育委員会が事務局となり、図書館や各保育所、幼稚園、小・中学校、読書ボランティアなどが一緒になって読書を推進する取り組みで、昨年11月に開催した読書フェスティバルには1日で約1,000人が来場しました。（当日の様子は16ページへ）

市内には読書ボランティアの組織が網の目のようにあり、放課後児童クラブや保育所、幼稚園、小・中学校で読み聞かせをしてく

れています。また、図書室の本棚の整理や飾り付けを手伝ってくれる保護者の方もたくさんいます。読書離れが進んでいますが、長年続けてきた取り組みにより、読書好きな子は着実に育っていると感じています。

読書は子どもの未知の世界の扉を開き、探究心や好奇心、そして豊かな心を育ててくれます。また、本には時に人生を変えるような力もあります。本との出会いを通して、心も頭もほくほくと柔らかくほぐしてほしいと思います。

特集

# 2020年、

# 読書はじめ

新年は、少しでもテレビやパソコンを消して、ゆっくりと本の世界へ。

読書は好きですか？

OECD（経済協力開発機構）の国際学習到達度調査（PISA A）で、日本の15歳の読解力低下が明らかになりました。読書の頻度は10年前と比べて減少傾向にあります。

観音寺市の小学生から高校生までを対象にしたアンケート調査では、成長するにつれ、読書を好きな割合が低くなり、本を読まない割合が増えています。

テレビやパソコン、スマートフォンにゲーム。私たちは、楽しく充実した時間を過ごせる便利な物に囲まれています。ただ、それらに時間を費やしてしまい、本を読んで想像したり、考えたりする時間が不足しがちです。

### 読書習慣2020運動

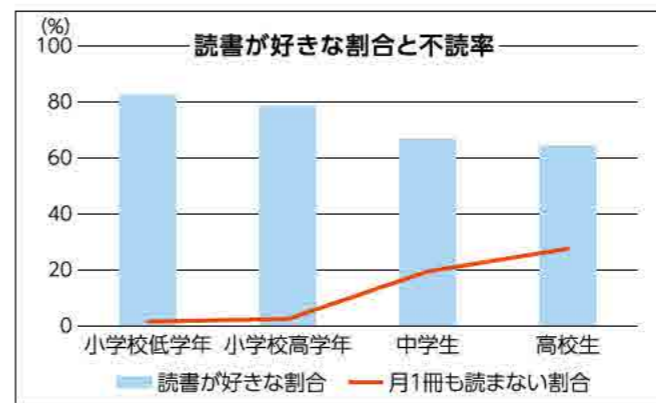
#### 1日20分本を読もう

新しい年は、気持ちを新たにチャレンジしやすい時期です。2020年という区切りの良い年に合わせて、例えば「1日20分本を読む」「1カ月に2冊本を

読む」など、無理をしないペースで自分なりの目標を立ててみましょう。

「どんな本を読んでいるかわからない」という人は、図書館に足を運んでみてください。館内特集コーナーに展示している本をはじめ、新刊や自分の好きな分野の本棚を見つめると、選びやすいかもしれません。

ことしは、読書習慣を身に付けてみませんか。



〔第3次観音寺市子ども読書活動推進計画〕平成29年度アンケート調査



## 図書館へ行こう

2019年12月で  
開館15周年を  
迎えました



中央図書館



大野原図書館



豊浜図書館

市内3館合わせて、約29万冊の本を収蔵しています。書籍以外にも、新聞や雑誌、CDやカセットテープ、DVDなどがあります。

### ●開館時間など

火曜～金曜日：午前9時～午後6時  
土・日曜日、祝休日午前9時～午後5時まで  
※月曜休館。年末年始は、12月29日(日)～  
1月3日(金)が休館日です。

### ●貸し出し方法

市内に在住・在学・在勤している人に貸出カードを発行します。住所・氏名などを確認できるものを持参してください。ICカードのため、館内自動貸出機で本を借りることができます。



### ●本の貸し出し冊数など

貸出期間は15日以内。図書、雑誌は一人10冊まで、視聴覚資料(ビデオ、CD、カセットテープ)は1人1点までです。DVDは館内視聴のみ。

「もう少し借りたいな・・・」というとき  
2週間の貸出延長ができます

### ●延長方法

観音寺市立図書館のホームページから「マイページ」にログインして、次の手順で行ってください。  
**(利用状況確認⇒書名クリック⇒貸出延長)**  
※図書館の専用端末、窓口でも手続きできます。  
※1冊につき1回のみ。返却期限が過ぎていたり、予約が入っていたりする本は延長できません。



富田 清さん(観音寺町)

10冊を1週間から10日で読破する富田さんは88歳。夜7時半に床に就き、布団の中で4時間ほど読書するのが日課です。  
**お薦めの本**『鬼平犯科帳』(池波正太郎)、『スカーレット・ウィザード』(茅田砂胡)

私の母はとにかく本が好きで、父から叱られるくらい本を読んでいました。「うさぎとかめ」などの童話を母に読み聞かせてもらい、私も子どもの時から本をよく読んでいました。小学生の頃、隣の席に講談本の好きな子がいてね。当時、本は貸本屋で借りるものでした。3日で何円といった具合です。友達が借りた本をさらに借り、貸本屋にすぐ返さないといけないので1日で読んでいました。本を読むのが速いのは、その頃からかもしれません。

好きなジャンルは時代小説で、茅田砂胡さんなどのライトノベルも読みます。難しいものは読みません。気持ちが暗くなった時は、心がパッと明るくなったり、スカッとしたりする本を読みます。

読書の魅力は、違う世界に行けること。あれこれ想像するのが楽しいから、本を読んでいるんだと思います。

### ●ホームページから本の予約ができます

新刊をはじめ、借りたい本を予約することができます。雑誌も、最新号以外は予約できます。

### ●予約方法

観音寺市立図書館のホームページから「マイページ」にログインして、次の手順で行ってください。  
**(蔵書検索⇒書名クリック⇒予約)**  
※マイページでメールアドレスを登録すると、予約本が返却されたことをメールでお知らせします。  
※図書館の専用端末、窓口でも予約できます。

図書館ホームページはこちらから。マイページのログイン方法が不明な場合は窓口まで!



尾藤 祐衣子さん(大野原町)

昨年、関西から引っ越してきた尾藤さん。週に1度は図書館で本を読むそう。  
**お薦めの本**『夜と霧』(ヴィクトール・E・フランクル)、『漁港の肉子ちゃん』(西加奈子)、『人間失格』(太宰治)

小さい頃、翻訳家の間崎ルリ子さんが開いた「鴨の子文庫」という児童書の図書館に、母がよく連れて行ってくれました。母は本が好きで、ピーターラビットやドクター・ドリトルシリーズなどの本をよく読み聞かせてくれました。

3年ほど前に、『夜と霧』を読んで世界観がガラッと変わりました。ナチスの強制収容所に収監され、そこで何年も耐えた人が書いた本で、読み終えて、自分は今本当に幸せだと思いました。

本は友達のような存在ですね。登場人物に自分と同じ考え方の人がいたり、思っても言葉にできないことを的確に表現してくれていたりすると嬉しいです。また、生きる時代や住んでいる国が違って、嬉しいことや悲しいことは同じだと気づき、これってすごいことだと本を読みながらいつも感じます。

### ●おはなし会や工作教室など楽しいイベントも



おはなし会や古典文学教室など、読書に親しむイベントやワークショップを開催しています。毎月のスケジュールは広報紙の図書館だより(今月は23ページ)で確認できます。



俊野 淳子さん(瀬戸町)

仕事の合間に週1回は図書館に通い、「読みたい本ノート」を片手に本を探します。  
**お薦めの本**『アーモンド』(ソン・ウォンピョン)、『十二国記シリーズ』(小野不由美)、『坂の途中の家』(角田光代)

子どもの時から本が好きです。同じ本を何度も読み返しているのを見た父が、書店で文学全集をひとそろい買ってくれました。

数年前から新聞の書評や広告欄などで気になった本をノートにメモし、予約システムを活用して借りています。中央図書館にない本でも取り寄せてもらえるのでありがたいです。

息子は幼い頃はあまり本を読みませんが、高校生の時に司書の先生に薦められた本を読んでから、どんどん本が好きになりました。図書館という場所や司書さんなど、本と人をつなぐ存在がいることは大事だと思います。

本が苦手な人は、自分の好きな分野の本から読み始めてみてはどうでしょうか。面白くなかったら最後まで読まなくてもいい。だって、図書館には他にも本はたくさんありますから。

図書館で  
聞きました

# 本好きさんに聞く、読書の魅力

図書館で出会った、本が大好きな皆さんに、読書の思い出やお薦めの本について聞きました。皆さんのお薦め本は、全て図書館で貸し出ししています。

分からないことがあれば、図書館スタッフに気軽に聞いてくださいね!



中央図書館 ☎23-3960  
大野原図書館 ☎54-5715  
豊浜図書館 ☎52-1206